ＳＭＣ金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain　SMC 豊島 健治

「それ」は誰が負担するか

「一利を興すは一害を除くにしかず」とは、元朝ジンギス汗の重臣耶律楚材の言葉だそうだが、この言葉の意味（利益になることを一つ始めるよりは、従来から害になっていることを一つ除いたほうが効果的である）は、現在のような変化・変貌の激しい時代には時として省みる価値のある言葉のように思われる。

この大変な時代環境の中で、私達はふと何か新しいことにチャレンジしたい誘惑に駆られるが、しかしその新しいことが果たして自社に貢献するのかどうか判断するのは中々難しい。それよりも、現在出来上がっている仕組の中で自社の足を引っ張っているものが何なのかを明らかにして、それを取り除く方が賢明な場合もあるかもしれない。チャレンジ精神は常に保持しなければならないが、「六守四攻」（守り６割、攻撃４割でバランスをとる）という言葉もあるように守成の精神も大事である。

何故こんなことを言い出したかというと、大手百貨店「三越」と乳酸菌飲料大手「ヤクルト」をめぐって起きた“事件”の報道を一部見聞して、考えさせられたことがあったからである。

この両社の事件は既に旧聞に属するものであるが、「一利」を求めて新しい事にチャレンジした結果惨澹たる事態を引き起こしたことで共通している。

百貨店の老舗三越は、昨年中間決算時に何と４００億円超える特別損失を計上した。原因はゴルフ場開発の失敗である。三越が、先ごろ自己破産した県内大手建設会社と組んでゴルフ場ビジネスに手を出していることは９０年頃から耳にしていたが、そしてかなりの損失を抱えているとの噂も流れていたが、まさかこんな巨額の損失とは想像もしなかった。そして更に理解出来ないのは、今後もゴルフ場開発を継続しそこに資金を投入するという経営陣の考え方である。

どういう風にやればゴルフ場で４００億円もの損を出せるのか三越の経営者に教えて貰いたい気がするが、ゴルフ場開発に更なる資金を注ぎ込む経営者は「この損失を負担しているのは誰か」自覚しているのだろうか。甚だ疑問である。

ヤクルトという名前の飲物を知らない人はいない程知名度のあるヤクルト社が、デリバティブで１，０００億円を超える損失を出して話題となったのは、今春である。

私の家ではヤクルトを長年とっている。ここ数年は週１回の配達で月間料金が２，０００円程度の小口利用者であるが、こうした戸別配達・集金という仕組を作り上げ乳酸菌飲料を広く普及させたのはヤクルト社の功績であろう。このヤクルト社が、年間売上の約７０％相当額を新しい事業ですって失ってしまった。

ヤクルトレディーと称される婦人達がコツコツ売って集めたお金をドンとどぶに捨てた訳だが、その損失を誰が負担しているのか経営者は自覚していたのだろうか。

ヤクルト社が投機に熱心な会社であることはつとに有名であったが、悪いのはデリバティブにあるのではなく自制が効かなくなった経営にあったように見える。

三越にしろヤクルト社にしろ、この会社に投資した投資家は百貨店や乳酸菌飲料会社に投資した筈が、結果的にゴフル場や財テク企業に投資したことになってしまった。また、三越で買い物をする人々やヤクルトの乳酸菌飲料を飲む人達は、自分達の支払った料金の一部がゴルフ場やデリバティブの損失に廻されることを図らずも知ることとなった。

我が家ではヤクルトを未だ止めてはいないが、今後三越で買い物をすることは恐らくない。三越やヤクルトは、新しい事業で何を得て何を失ったのか？それは中小企業にとっても教訓となる。

事業は自社の提供する商品等に繰り返し代金を支払ってくれる顧客の創造を目的としている。それをぶち壊すような「一利」も、時として経営者を虜にすることもあるので自戒が必要だ。

§銀行取引Ｑ＆Ａ§

Ｑ　当座預金に手形・小切手が回ってきた時の決済に順番はあるのですか？

Ａ　当座預金は銀行と預金者の間での支払委託契約に基づいています。同じ日に交換呈示された手形・小切手をどのような順に決済するかは、資金が不足する場合、銀行が判断・決定することになります。銀行に利害がない時は、預金者の意向を聞いて処理することもあります。

TEL. 0438−53−6092 FAX. 0438−53−6096
E-mail smc_toyo@hi-ho. ne. jp